2022年度　自己評価公表シート

小城ルーテルこども園

2023年6月

１、本園の教育目標

キリスト教精神を土台とした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている

１、生涯の土台作りのために、いろいろな実際体験を保育に取り入れる。
２、一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育をする。
３、豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
４、神様からいただいた身体を大切にする心を育てる。
５、友だちと共に生活することに喜びを持つ心を育てる。
６、自分からあそびに取り組んだり、自主的に活動できるように援助する。
７、家庭と園の協力を大切にし、保護者と保育教諭が協力しあう。

２、本年度重点的に取り組む目標・計画

① キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を大切にすることができるようになるために、新型コロナウイルス感染症の拡大により得た新しい生活様式の経験を活かして、引き続き乳幼児の心身の育ちを豊かに守っていくための保育者の関りを学んでいく。
②子どもの人格や権利を尊重し、大人と子どもの情緒的結びつきを深め、より良い関係を生み出すための保育者の関りを学び、日頃の保育に取り入れる。（担当制、あそび、ことば、環境）
③子ども一人ひとりの多様性を理解、尊重しながら、一人ひとりがどのような援助をし必要としているかを把握し生活上の困り観を改善できるような関りをし、子どもが自己肯定感を高め、生活をしていくためには、どのような取り組みや環境作りが必要であるかを、特別支援教育の立場から学んだことを実践する。

３、評価によりみえてきた主な課題とその取組み方法

評価項目	努力点・改善点	具体的な取り組み方法
乳幼児理解	・個々の成長過程を理解、把握し、一人ひとりの違いを尊重し、保育を行おうと園全体で取り組んだ。子どもが安心して生活できるために、子どもに寄り添う丁寧な言葉かけや表情等、確認しあってきた。 保育者との信頼関係は強く結ぶことができたと感じる。今年は特に、特別支援教育の立場から、すべての子どもの育ちに、何が必要なのかを職員全員で学ぶことができ、学びを保育の中で実践できた。	・丁寧な保育、適切な保育とは何かを今一度確認し合う1年にしていきたい。子どもの人格、権利を尊重した保育を行うためには、保育者自身の余裕や心がけが必要である。また、人的環境といわれる大人の言葉かけやしぐさなどもお互いに意識し合い、心に余裕を持ち保育にあたりたいと考えている。 子どもの行動には必ず理由があるという理解の下、子どもの困り感に気付き、手を添えていける様、保育者間での情報共有をし、保護者とも連携をとり、適切な援助をしていく。 0，1，2歳児クラスでは、担当制の学びを研修を通して深めていく。
資質向上	・2022年度は、特別支援教育の立場から研修に取り組んだ。 子どもの育ちの理解から始まり、感覚統合、言語の発達、等様々な方面から、全保育者が研修を受け、共有することができた。 ・コロナ禍だからこそキリスト教精神を土台に据え、神様からいただいた心と体を大切にするために、自分と友達の健康に目を向け、自分ができる感染予防の方法を身につけることができた。保育者は、その環境を作ることで、大変気を使って過ごした1年だった。	・2023年度は対面式で様々な人との出会い、その中で会話が弾む研修に参加していきたい。 また、それぞれの職員が質の良い研修を受け、内容を共有できるよう体制を整えていく。 ・専門性を高めるための研修に積極的に参加し、職員全体で取り組めるようにする。 ・月に1回、牧師による聖書の学びを通して、聖書に触れ、神様のメッセージを聴き、自分自身の幅を広げるものとしていきたい。 ・保育者自信が神様のお話の理解を深め、子どもの礼拝時の話に保育者の感性が表現されるような豊かな礼拝を目指したい。
保育計画・内容	・週案で活動内容や子どもの様子を伝えあうことができたので、時間を有効に使い準備することができた。 ・感染拡大予防の為、保護者参加の行事は人数制限などの規制はあったが、昨年度よりは感染予防対策の上実施でき良かった。 ・実体験を大切にするため、戸外での活動や、食育に関する活動を大切にしてきた。 栄養士に食育に関する指導を子どもたちにしてもらい、子どもたちは食することに興味を持つことができた。	・昨年に引き続き、週案作成、リスクマネジメント委員会、給食委員会などの必要性の高い会議は、確実に行うことができ、情報も共有できた。学年の話し合いについては以上児クラス、未満児クラス共に、計画し、時間の確保ができた。 ・保護者に子どもの成長が見える方法を考え工夫していく。 ・今年も栄養士との連携を図り食育を推進していく。 　子どもたちと、食することの大切さや、命の教育に繋がる経験が持てるよう努力していく。（堆肥BOXで堆肥を作る） ・環境教育にも力を入れ、神様が作ってくださった地球を守るために、私たちができることを考え、体験していく (大人がSDGsに関心を持ち、生活する)
保護者 地域連携 子育て支援	・コロナ禍で行事も減り、門扉での受け渡しになったため、保護者と直接会って、話をする機会が減った分、コドモンを利用し、子どもの様子を伝えていった。感謝される部分もあったが、もう少し、保護者との交流を工夫する必要があった。 ・子育て支援については、予約制にし、可能な限り実施した。	・コロナ禍を経験し、保護者に子どもたちの成長をまじかに見ていただくことの大切さを感じた。今後も子どもの成長のために、情報の発信をしていく工夫をし、園と保護者が同じ方向を向き、安心して子育てができるような関係性を築いていきたい。そのためには、「コドモン」を活用し発信する工夫や努力をする。また、保育参観等の機会も設けたい。 ・子育て支援においては、地域で子育てをしている母親の居場所となり、安心して相談できる場所となるよう、引き続き努力して実施する。

職員間のコミュニケーション	・職員会、リーダー会、学年の話し合い等定期的に計画をし実施できた。パートの職員の参加により学年の職員間の情報共有ができた。話し合いの内容の見える化に心掛けた。 ・報告、連絡、相談の大切さは、常に職員で共有し、確認し合った。 ・レクレーション係の推進により、職員間の親睦が図るための企画をし、コロナ禍でも職員の交流が図れる工夫をした。	・職員のコミュニケーションを図るため、共通認識の必要性に重きを置き、改善していった。特に今年は情報の見える化に取り組み、情報が伝わりやすく皆が共有することができ、良い関係性ができてきたので、引き続き実施していく。 ・当園の規模で職員間で情報共有して保育に携わるためには、小さなことでも、報告・連絡・相談を確実にし、解決策を見出し、迅速に対応していけるように職員間で確認し合う。 ・職員間の親睦を深めるため、皆が参加できるようなレクレーションを工夫し、リフレッシュできる交流を図っていきたい。

４、総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の理解を得ながら、園独自の感染予防対策の基準に従って行事の実施方法を職員の意見交換や話し合いを通し決めていった。また、感染予防対策については、常に園医と相談し、当園の園児数（園の規模）を鑑みて、他園より厳しい基準であったが、子どもたちの命を守ることができた。保護者の方々もクラス閉鎖等の措置に対して快く協力していただいたことは感謝であった。また、感染防止対策で園敷地内入場制限が長く続き、保護者とのコミュニケーションが取りづらい状況となり、園や子どもの様子が保護者に伝わりにくかったので、情報発信していく手立てを工夫したが、コロナ禍で3年間、園生活を過ごした保護者にとっては園内の様子、園の取り組み、子どもたちの園生活の様子がもっと知りたかったという意見があった。
昨年度、取り入れた保護者連絡ツールの「コドモン」の機能を利用して、保護者への連絡方法や子どもの園内での様子の発信も心掛けたところ、保護者には喜んでいただけた。（ドキュメンテーションなど）
また、本年度重点的に特別支援の立場から研修を行い、子どもの個々に合わせた援助の方法を学ぶことができ、子どもの育ちの理解を深めることができ、実践して行くことで、子どもの成長に繋がる援助ができた。『皆同じように神様に愛されている存在として、一人ひとりを理解し、個々にあった援助をし肯定的に、丁寧に関わっていく』を皆で再確認して歩むことができた。
職員の会議も確実に行い、意見が出やすいように会議の在り方も工夫し、積極的に話し合いを進めることができた。
経験が豊かな職員も増えてきて、様々なアイデアを出し合い保育を進めていくことができていることが喜ばしい。

５、今後の取り組むべき課題（昨年度に引き続き取り組む）

課題	取り組み方法
キリスト教保育に基づき、丁寧で適切な保育とは何かを探り実践する	子どもの人格や権利を尊重し、大人と子どもの情緒的結びつきを深め、より良い関係を生み出すための保育者の関りを学び、日頃の保育に取り入れる。 （キリスト教保育、担当制、あそび、ことば、環境）
保護者や、地域への情報公開と情報発信	コロナ禍中に希薄になったと思われる保護者との関わり、地域との関わりをもう一度見直し、再び子育ての相談や地域の行事への参加等、小城の地域にとって必要な当園の役割を再認識し、子ども達の成長を大人が共に喜び合える関わりを増やしていく。
特別支援の推進と子育て支援の充実	一人ひとりの子どもの多様性や個性を包み込む教育、保育を目指し、保育環境や指導の改善を進める。 子ども、子育て支援の拠点として、地域の子育て中の親子が安心して集うことができる親子の集いの場を提供し、相談等の機能を果たせるように内容を充実させていく。 （サークルドレミの充実）

６、学校関係者の評価

◎それぞれの目標に対し、子どもたちだけでなく、お互いに対しても丁寧に、人権や違いを尊重しながら、様々な取り組みを実現されていて、素晴らしいと思います。
また、キリスト教保育についての理解の共有や、特別支援教育についての学びも取り入れ、こどおたち一人ひとりを大切にしていることが伝わります。
様々な課題もあると思いますが、引き続き現在の活動を続けていかれることを期待します。
◎子どもを真ん中に寄り添って保育をしていただいているので、皆,心の成長はとても立派だと思います。
保護者や地域の方からの子どもたちへ向けての学びの場や巡回相談など特別支援教育に関する保護者への共有等、を取り入れていただくと今後の子ども達への成長に繋がると思います。

７、財務状況

公認会計士監査により、園の運営、財務管理は適正に行われていると認められています。
（公認会計士　藤崎　武　　公認会計士　坂田　達哉）

監事　広渡　純子
監事　山本　康徳